日本社会教育学会

第 70 回研究大会プログラム

JAPAN SOCIETY for the STUDY of ADULT and COMMUNITY EDUCATION : the 68th Annual Conference

日　時　2023 年 9 月 8 日（金）～ 10 日（日）
オンライン（ZOOM）開催

9月 8日 金	10：00 ～ 12：10 自由研究発表 1・2・3・4・5	13：00 ～ 15：30 プロジェクト研究 「多文化・多民族共生を目指す社会教育の挑戦」	16：00 ～ 18：30 社会教育士 特別プロジェクト
9日 土	10：00 ～ 12：10 自由研究発表 6・7・8・9・10	13：00 ～ 15：30 プロジェクト研究 「社会教育学における余暇・レクリエーションの再検討」	16：00 ～ 17：30 倫理研修
10日 日	10：00 ～ 12：10 自由研究発表 11・12・13・14	13：00 ～ 15：30 プロジェクト研究 「障害をめぐる社会教育・生涯学習」	16：00 ～ 18：00 ラウンドテーブル ①～④

当日の参加受付はありません
事前参加申込みシステム受付期間：8 月 4 日（金）～ 8 月 25 日（金）
※事前参加申し込み方法は 2 ページ参照のこと。

◆運営　2022・2023 年度理事会

◆参加費（事前振込）：会　員　一般　1,500 円 ／大学院生 1,000 円
非会員　一般・大学院生 1,500 円／学部生は無料（但し、学生証提示のこと）

＊全国理事会は 9 月 25 日（月）18 時 30 分～、総会は 9 月 30 日（土）14 時～オンラインでの開催を予定しております。

＊自由研究発表者は、発表要旨を下記受付期間内に〈自由研究発表要旨投稿システム〉にご提出ください。
→受付期間：7 月 20 日（木）～ 8 月 20 日（日）

◎大会についてのお問い合わせ・ご連絡は 3 頁参照。

【　目　次　】

◇第 70 回研究大会・事前参加申込について …… 2 頁
◇オンライン開催にあたっての注意事項 …… 3 頁
◇第 1 日目（9 月 8 日）プログラム
自由研究発表 1･2･3･4･5 …… 4 ～ 6 頁
プロジェクト研究「多文化・多民族共生を目指す社会教育の挑戦」 …… 7 頁
社会教育士特別プロジェクト …… 8 頁
◇第 2 日目（9 月 9 日）プログラム
自由研究発表 6･7･8･9･10 …… 9 ～ 11 頁
プロジェクト研究「社会教育学における余暇・レクリエーションの再検討」 …… 12 頁
倫理研修 …… 13 頁
◇第 3 日目（9 月 10 日）プログラム
自由研究発表 11･12･13･14 …… 14 ～ 16 頁
プロジェクト研究「障害をめぐる社会教育・生涯学習」 …… 17 頁
ラウンドテーブル①～④ …… 18 ～ 19 頁

■事前参加申込について

今回の大会はオンライン開催につき、参加受付は事前申込みのみとさせていただきます。

参加希望の方は、学会ホームページよりオンライン参加登録手続きを行っていただきます（オンラインで手続きが出来ない場合は、事務局までご連絡いただければ手続きいたします）。

なお、今回オンラインでの開催ということで、様々な対応を学会ＨＰ（一斉メール）にて通知いたしますので、メールアドレスの登録・確認をお忘れなきようお願いいたします。

当日の ZOOM の URL・要旨集等については９月６日（水）までにメールでご案内いたします。大会前日になってもご案内が届かない場合は事務局までお知らせください。

※準備の都合上、お申込み後のキャンセルはご遠慮ください。

オンラインでの開催となり、運営校も不慣れでご迷惑・ご不便をおかけすることをご理解いただき、円滑な集会運営にご協力いただければ幸いです。

◆オンライン事前参加申込受付：8月4日（金）～8月 25 日（金）

学会ＨＰのトップ画面にある＜研究大会参加申込システム＞から参加登録をしてください。

当日受付はございませんので、必ず事前申込をお願いいたします。

会員の方は、申し込みの際には会員 ID（ログイン ID）を必ず記入し、所属は学会に登録してある所属先を記入してください。

非会員の学部生は、学生証を添付の上、参加費無料になります。

◆参加費の支払い：事前振込

※こちらで入金の確認が出来ない場合は参加申込みを受付出来ない場合があることご了承ください。

＜振込先＞　ゆうちょ銀行　振替口座 00150-1-87773

他金融機関からの振込用口座番号　〇一九（ゼロイチキュウ）店（019）当座 0087773

口座名：日本社会教育学会

振込金額：　会　員　一般￥1,500 ／大学院生￥1,000

非会員　一般￥1,500 ／大学院生￥1,500

振込みの際には、必ず氏名（所属）をご記入ください。

※参加費の振込みのみ、または参加申込みのみだけでは参加受付とはなりませんのでご注意ください。

■オンライン開催にあたっての注意事項

・本大会では、すでに多くの大学等での実績があるオンライン会議システム「Zoom」を使用します。
・オンライン会議室では最大接続数があり、これを越えると入室することはできません。あらかじめご了承ください。また、多くの皆様に参加していただくため、1 人の方が複数の端末を使って複数の発表に同時にアクセスすることはご遠慮ください。
・基本的に、録画による受信映像や画面共有資料の保存（画面キャプチャーを含む）、録音、再配布を禁止します。ただし、発表者や主催者の許可があった場合はその限りではありません。
・チャット機能を使用して当日に資料を配付することがありますが、配布後に参加した場合はその資料をダウンロードできないことがあります。
・無用な音声の流入・ハウリングや、不安定なネットワークからの接続などによりセッションの進行に支障があると判断される場合には、ホスト側によりミュート操作を行ったり、接続を切断したりする可能性があります。
・その他、進行にあたっては司会者・ホストの指示に従っていただけますようお願いいたします。

■大会へのお問合せ・ご連絡先

◆日本社会教育学会事務局

ＨＰ　https://www.jssace.jp/
〒189-0012　東京都東村山市萩山町 2-6-10- １F
E-Mail：jssace.office@gmail.com

第1日目　9月8日（金）

自由研究発表 1・2・3・4・5

10：00 ～ 12：10（共同研究者は○印が登壇者）

第1室　原理論・思想

司　会　　松岡　廣路（神戸大学）

10：00 ～ 10：20　時空間としての地域
—コミュニティ・ストーリーの再編集としての社会教育実践の意義と分析課題—
宮﨑　隆志（コミュニティワーク研究実践センター）

10：20 ～ 10：40　教育実践に求められる知（saber）に関する考察
—パウロ・フレイレ『オートノミーの教育学』の分析を中心に—
野元　弘幸（東京都立大学）

10：40 ～ 11：00　戦後社会教育雑誌にみる条件整備と住民参加をめぐる議論の検討
—平沢薫・宇佐川満・福尾武彦に焦点をあてて—
堂本　雅也（京都橘大学・非常勤）

11：00 ～ 11：20　内発的発展論における「キー・パースン（key-person）」概念の再検討
—地域づくり主体としての学びに着目した考察—
村上　竜雄（東京工業大学大学院）

（11：20 ～ 11：50　全体討議）

第２室　歴史

司　会　　小川　史（横浜創英大学）

10：00 ～ 10：20　大正期から昭和初期における学校と地域社会の関わり
—名古屋市の「連区教育会」を例に—
伊藤　史彦（名古屋大学大学院）

10：20 ～ 10：40　大正期の公的社会教育に関する研究
—乗杉嘉寿の娯楽論の視点から—
松山　鮎子（大阪教育大学）

10：40 ～ 11：00　商店法下における店員たちの修養と慰安
—ラジオ「店員の時間」を中心に—
江口　潔（九州大学）

11：00 ～ 11：20　伊藤寿朗博物館論における観光概念の検討
栗山　究（法政大学・非常勤）

（11：20 ～ 11：50　全体討議）

第3室　学習文化活動

司　会　　歌川　光一（聖路加国際大学）

10：00 ～ 10：20　農村における長期継続した生活記録の実践構造と地域的展開
—新潟県十日町市山間部を事例に—
吉田　弥生（北海道大学）

10：20 ～ 10：40　高等教育機関における現代的「生産教育」の構想と実践
—奄美〈環境文化〉教育プログラムの事例分析より—
小栗　有子（鹿児島大学）

10：40 ～ 11：20　福岡市主婦卓球愛好会と「生活卓球」文化の創造
—関係団体を生活者視点から描きなおす—
○岡　幸江（九州大学）、○溝内　亮佑（九州大学大学院）
○江崎　文寿（九州大学大学院）、○松永　圭世（九州大学大学院）
中山博晶（九州大学大学院）、鎌田　宜佑（九州大学大学院）

（11：20 ～ 11：50　全体討論）

第4室　学習文化活動

司　会　　渡辺　幸倫（相模女子大学）

10：00～10：20　コミュニティ・エンパワメント評価をめぐる一考察
堀　薫夫（大阪教育大学・名誉教授）

10：20～10：40　スウェーデンにおける「福祉社会」への移行と Social Pedagogy
松田　弥花（広島大学）

10：40～11：00　対話の積み重ねによるミュージアムの多文化共生
―フィンランドの事例から―
山本　桃子（早稲田大学）

11：00～11：20　創造活動からみる技術と人間の創造性
―レッジョ・エミリアの教育実践に着目して―
蔡越先（北海道大学大学院）

11：20～11：40　多文化共生社会における市民の内なる国際化の深化
―CEFR-CV の mediation 概念との関連から―
井上　みのり（北海道大学大学院）

（11：40～12：10　全体討論）

第5室　地域・地域問題

司　会　　大村　綾（西九州大学短期大学部）

10：00～10：20　「孤育て」社会に共同性を取り戻す保育園の可能性
―A 保育園の実践に着目をして―
城田　美好（早稲田大学大学院）

10：20～10：40　子どもの教育福祉における社会教育の位置の検討
―児童福祉・学校福祉政策の変遷との関係から―
入江　優子（東京学芸大学）

10：40～11：00　地域参加における親の出会いと学びのプロセス
―子育ての主体であり地域を創る主体として―
宮嶋　晴子（九州女子短期大学）

11：00～11：40　韓国・農村地域教育共同体の“学びの構造“
○吉岡　亜希子（北海道文教大学）
○河野　和枝（北海道地域・自治体問題研究所）
若原　幸範（聖学院大学）

（11：40～12：10　全体討論）

プロジェクト研究

「多文化・多民族共生を目指す社会教育の挑戦」

13：00～15：30

人権と民主主義の観点から考える多文化・多民族共生の「いま」

司　会　ハスゲレル（東京都立大学）
　　前田　耕司（早稲田大学）

報告①　「多文化・多民族共生のために必要なこととは　―在日コリアンの立場から―」
　　崔　江以子（川崎市ふれあい館）

報告②　「ニューカマーの子ども・若者の教育保障と「学び」をめぐる交差性
　　―学齢超過者に対する高校進学支援の実践から―」
　　相良　好美（千葉大学）

報告③　「地域における多文化共生　―難民認定申請者と地域住民の交流を事例に―」
　　土田　千愛（東京大学）

報告④　「先住民族アイヌと多民族共生社会実現に向けての課題」
　　上野　昌之（東洋大学）

六月集会では、多文化・多民族共生を具現化していくためには、いま一度人権と民主主義の保障に目を向ける必要性があることが確認された。人権と民主主義は、多文化・多民族共生を考える際にまさに見落とすことのできない概念であり、戦後日本社会や社会教育を振り返ったときに大切にされてきた理念であった。しかしながら、一方で、外国人や先住民族、女性などのマイノリティの教育を受ける権利や学習権、文化権、多言語の権利などが、おろそかにされている実態があることは否めない。また、民主主義の観点から考えても、主権者としての外国人や学習者としての外国人の存在がどれだけ現場で想定されているのか、明確ではないと思われる。

2023 年度研究大会では、六月集会や第 1 回公開研究会で出されていた論点を引き継ぎながら、人権と民主主義の観点から、多文化・多民族共生の「いま」を整理することを試みる。オールドカマーやニューカマー、難民、先住民族の 4 つの現場から、改めて人権と民主主義の観点から多文化・多民族共生を捉える必要性を共有したい。

社会教育士特別プロジェクト

16：00～18：30

社会教育士・社会教育主事研究の課題と方法

司　会　内田　純一（高知大学）
　　村田　晶子（早稲田大学）
報告①　「特別プロジェクト研究の見取り図について」
　　岡　幸江（九州大学）
報告②　「各部会から」
　　各部会長（養成課程部会／主事講習部会／しくみ・計画部会／
　　研修・組織化・キャリア部会／比較部会）

2020 年度に社会教育主事養成制度が改正され、新たに社会教育士の称号が設置された。社会教育士称号取得者は昨年度までに 4,526 人となり、養成課程からも修了者が今後増加することが見込まれる。文部科学省においても社会教育人材についての検討が進められている中、学会としても、社養協・社会教育士会と連携しつつ、情報を集め、方向性を示す必要がある。

本特別プロジェクトは、2019 年～ 2022 年に取り組まれた「社会教育士養成の可能性と課題」プロジェクトの成果と課題をふまえ、社会教育士をめぐる主体や課題がより広範にわたってきていることを意識した発展を期すため設置された。11 月の常任理事会で設置と活動の概要が承認されたことを受け、3 月には第 1 回会議を開催し、5 月に 4 つの部会を設定した。

研究大会では、特別プロジェクトのスタートアップとして、学会として取り組むべき研究の枠組みとこれからの検討課題、および時間的見通しについて、プロジェクト全体と各部会から提案する。

第2日目　9月9日（土）

自由研究発表 6・7・8・9・10

10：00 ～ 12：10（共同研究者は〇印が登壇者）

第６室　歴史

司　会　　江口　怜（摂南大学）

10：00 ～ 10：20　1960 年代における母親教育の模索　―平湯一仁の活動に注目して―
山梨　あや（慶應義塾大学）

10：20 ～ 10：40　地域医療実践をめぐる医療関連労働者の意識変容
木下　卓弥（北海道大学大学院）

10：40 ～ 11：00　上野英信の人間観・地域観と「筑豊文庫」の実践史的検討
農中　至（鹿児島大学）

11：00 ～ 11：20　新中間層の学習活動と行政の関係をめぐる地域史
―高度成長期における横浜市内の団地を事例として―
久井　英輔（法政大学）

11：20 ～ 11：40　高度経済成長期の都市近郊における女性の学習
―東京都多摩地域の学習講座の変遷をたどって―
中尾　友香（中央大学大学院）

（11：40 ～ 12：10　全体討論）

第７室　職員・学習支援者

司　会　　倉持　伸江（東京学芸大学）

10：00 ～ 10：20　都市のコミュニティアートの展開にみる「弱さ」の連帯の生成

―「声」に応答する NPO スタッフ・ボランティアに注目して―

中山　博晶（九州大学大学院）

10：20 ～ 10：40　「ワークショップデザイナー」として生きる芸術家

―「揺らぎ」と向き合うアイデンティティ形成に着目して―

鈴木　理仁（東北大学大学院）

10：40 ～ 11：20　公務非正規専門職の女性たちにとっての持続可能性

―男女共同参画センター職員へのインタビュー調査から―

○小河　洋子（神戸女子大学・非常勤）

○廣森　直子（大阪信愛大学）

（11：20 ～ 11：50　全体討論）

第8室　学習機会・施設

司　会　　益川　浩一（岐阜大学）

10：00 ～ 10：20　台湾における社会教育認識に関する一考察

―社会教育法の制定、改正、廃止に関わる議論を中心に―

山口　香苗（秋田大学）

10：20 ～ 10：40　創設・普及期の公民館施設の設置形態

田所　祐史（京都府立大学）

10：40 ～ 11：00　地域社会の再編と社会教育・生涯学習Ⅱ

―地域公民館の役割に着目して―

植村　秀人（南九州大学）

11：00 ～ 11：20　自治公民館論争の現在地と再展開

―「倉吉方式」の今日的状況に着目して―

丹間　康仁（千葉大学）

（11：20 ～ 11：50　全体討論）

第9室　学習機会・施設

司　会　　生島　美和（帝京大学）

10：00 ～ 10：20　求人情報から見る英国ミュージアムの寄附金獲得戦略

瀧端　真理子（追手門学院大学）

10：20 ～ 10：40　地域の人材育成講座をプラットフォームとしたラーニングシティ形成への期待

藤田　公仁子（富山大学）

10：40 ～ 11：00　公立図書館未設置市町村における移動図書館の検討

石川　敬史（十文字学園女子大学）

11：00 ～ 11：20　原子力災害被災地における住民エンパワメント実現への課題

―東日本大震災・原子力災害伝承館での住民参加型イベントの成果を通じた考察―

青砥　和希（東日本大震災・原子力災害伝承館）

（11：20 ～ 11：50　全体討論）

第 10 室　政策・運動

司　会　　古里　貴士（東海大学）

10：00 ～ 10：20　当事者主体の取り組みを介した親の学びと変容

―英国における障害平等研修「Planning Positive Futures」を事例として―

橋田　慈子（日本学術振興会特別研究員）

10：20 ～ 10：40　〈居場所づくり〉が目的性の冷却をひきおこさないための諸条件

―若者支援 NPO（2003-2019 年）の「若者と政治をつなぐ」実践の検討から―

滝口　克典（よりみち文庫）

10：40 ～ 11：00　セクシュアル・マイノリティのアライとしての主体形成に関する考察

正木　僚（筑波大学大学院）

11：00 ～ 11：20　環境運動の持続性と学習

―都市近郊の里山における自然保護運動・環境保全活動を事例として―

叶田　真規子（東京都立大学・非常勤）

（11：20 ～ 11：50　全体討論）

プロジェクト研究

「社会教育学における余暇・レクリエーションの再検討」

13：00～15：30

文化・教養・自由時間

司　会　両角　達平（日本福祉大学）

報告①「地域文化運動としてのラグビーの研究　―「ラグビーのまち　府中」を対象に―」

川原　健太郎（作新学院大学）

報告②「交錯する修養と教養　―社会教育とジェンダーの視点から―」

大澤　絢子（日本学術振興会特別研究員）

報告③「現代日本におけるゆとりと「自由時間活用」の流れ」

青野　桃子（大阪成蹊大学）

2022 年六月集会で立ち上がった本プロジェクトも前半期を終えた。これまでの報告の中で正面からは取り上げられてこなかった「文化」「教養」「自由時間」を視点に据え、後半期に向けた研究課題について参加者とともに考えていきたい。

報告①では、府中市におけるラグビーに係る取り組みを対象にした事例研究を行い、地域文化運動としてのラグビーの現状と課題を明らかにする。報告②では、戦前期における女性の修養と教養の混ざり合いに着目し、それらがいかに社会教育と接続してきたのかを明らかにすることで、近代の自分磨きをめぐる精神史を検討する。報告③では、現代の「自由時間」の動向（効率性、生産性、コスパ意識、リスキリング等）と社会教育・生涯学習研究の接点を探りたい。

倫理研修

16：00～17：30

社会教育研究におけるインターネット調査の可能性と課題（仮）

司　会　堀本　麻由子（東洋大学）
報告①　中村　みちよ（多様な学びを共につくる・みやぎネットワーク）
報告②　田島　祥（東海大学）

近年パソコンをはじめ、スマートフォンやタブレット PC 等が普及したことにより、研究分野においてもインターネットを利用した調査が実施しやすくなった。

インターネット調査とは、一般的にインターネットを通じて調査票を配信し、パソコンやスマートフォン、タブレットなどの端末から回答してもらう調査手法をいう。従来の紙を使ったアンケート調査に比べ、インターネット調査は短期間に大量のデータを集めやすい点が大きな特徴である。さらに、最近は多様な機能を備えたアンケートシステムが開発されており、調査する側と回答する側の双方にとって利便性が高くなっているメリットもある。そして、新型コロナウィルス感染症のパンデミック下で、インターネットを利用した会議や授業、研究活動等が普及するようになり、オンラインインタビュー調査も増えている。

しかし一方で、こうした様々なメリットを持つインターネット調査を行う上で、注意すべき点も少なくない。例えば、インターネットを利用していない、または慣れていない層や、マルチデバイスへの対応ができない層の情報は集めにくく、回答の信頼性や信憑性の問題もあるため、慎重に取り組まなければならない。また、調査時の倫理的配慮も欠かせない。

そこで、今回の研修会では、研究や業務においてインターネット調査を活用したことがある研究者と実践家に、その経験や知見等を共有していただきながら、社会教育研究におけるインターネット調査の可能性と課題について検討する。

自由研究発表 11・12・13・14

10：00 ～ 12：10（共同研究者は○印が登壇者）

第11室　歴史

司　会　　野依　智子（福岡女子大学）

10：00 ～ 10：20　1920年代後半～1930年代の女性労働者と教育運動
—関東紡織労働組合沼津支部（東京モスリン紡織沼津工場）に
そくして—
辻　智子（北海道大学）

10：20 ～ 10：40　戦後青少年教育の展開過程における自立概念の変遷
大山　宏（独立行政法人国立青少年教育振興機構）

10：40 ～ 11：00　ブラジルにおける沖縄産業開発青年隊の移動と受容に関する検討
○山城　千秋（熊本大学）、農中　至（鹿児島大学）

11：00 ～ 11：40　昭和戦後期の長野県諏訪地域における青年期教育の展開
—独立定時制高校・岡谷竜上高校の成立前後と勤労青年の
学習組織に着目して—
○安藤　耕己（山形大学）、○倉知　典弘（吉備国際大学）
○大蔵　真由美（松本大学）、久井　英輔（法政大学）
栗山　究（法政大学・非常勤）、竹淵　真由（下諏訪町教育委員会）

（11：40 ～ 12：10　全体討論）

第 12 室　学習文化活動

司　会　　川野　麻衣子（NPO 法人北摂こども文化協会）

10：00 ～ 10：20　オルタナティブスクール教育実践からみる主体形成に関する一考察
宋　美蘭（弘前大学）

10：20 ～ 10：40　自然との関係を再構築する暮らしの実践の成立過程
―NPO 法人産の森学舎を事例として―
鎌田　宜佑（九州大学大学院）

10：40 ～ 11：00　子ども・若者支援施設における関係性構築過程
水野　聖良（大阪大学大学院）

11：00 ～ 11：20　子どもの学び・育ちに関わる大人の学び
―フリースクールスタッフ養成講座の分析から―
橋本　あかね（大阪公立大学）

11：20 ～ 11：40　子ども・若者支援職の力量形成を促す省察のあり方に関する考察
―子ども・若者支援の現場における気づきを中心にして―
佐渡　加奈子（社会構想大学院大学）

（11：40 ～ 12：10　全体討論）

第 13 室　学習文化活動

司　会　　齊藤　ゆか（神奈川大学）

10：00 ～ 10：20　戦争記憶の保存継承に関わる高齢者の学びと経験知のアーカイブ
―鹿児島・沖縄での戦争体験・戦後開拓をもとに―
久保田　治助（早稲田大学）

10：20 ～ 10：40　デス・エデュケーションの「学び」 ―1970 年代前後の実践を手がかりに―
飯塚　哲子（東京都立大学）

10：40 ～ 11：00　エンドオブライフケアを支えるコミュニティづくりと社会教育
―あるデイサービスの実践を事例に―
胡　韋（東北大学大学院）

11：00 ～ 11：20　地域住民への高齢化及び認知症に関する意識啓発活動と課題
―社会教育の立場から―
鈴木　尚子（徳島大学）

11：20 ～ 11：40　農村地域におけるコミュニティ活動運営の NPO・住民参加
―高齢化が進む中国農村の教育福祉実践に注目して―
祁暁航（北海道大学大学院）

（11：40 ～ 12：10　全体討論）

第 14 室　地域・地域課題

司　会　　長岡　智寿子（田園調布学園大学）

10：00 ～ 10：40　モンゴル国遠隔集落住民の生活と生涯学習

—ザブハン県ドゥルブルジン郡の事例より—

○ Dagvadorj Adiyanyam（東北大学）、松本　大（東北大学）

10：40 ～ 11：00　社会教育研究における社会的排除論の課題

—識字実践からの示唆をもとに—

長谷川　実（北海道大学大学院）

11：00 ～ 11：20　日本におけるパウロ・フレイレ教育思想の受容と展開

—『被抑圧者の教育学』邦訳前の読書会活動に着目して—

酒井　佑輔（鹿児島大学）

11：20 ～ 11：40　地方部において急増する外国人の実態と地域日本語教室

—鹿児島県の３市町村の比較分析を通して—

○山下　直子（鹿児島大学・非常勤）、酒井　佑輔（鹿児島大学）

（11：40 ～ 12：10　全体討論）

プロジェクト研究

「障害をめぐる社会教育・生涯学習」

13：00～15：30

障害をめぐる分断を超え行く実践論　～当事者性、支援、そして場の探究～

司　会　堀本　麻由子（東洋大学）
　　末光　翔（公益社団法人やどかりの里）
報告①「プロジェクト研究の足跡と企画の趣旨説明」
　　○向井　健（松本大学）、記伊　実香（早稲田大学大学院）、
　　梨本　加菜（鎌倉女子大学）
報告②「分断を超克する社会教育・生涯学習の理論的枠組みの提示」
　　○津田　英二（神戸大学）、小林　洋司（日本福祉大学）、
　　堤　英俊（都留文科大学）、橋田　慈子（日本学術振興会特別研究員）、
　　松田　弥花（広島大学）
報告③「理論的枠組みを具体的に考えるための事例提示」
　　○島本　優子（徳島市役所）、井口　啓太郎（国立市公民館）、
　　猪原　風希（神戸大学附属特別支援学校）、
　　渡邊　健一（図書館と市民をつなぐ会・相模原）　　○印は登壇者

障害をめぐる社会教育・生涯学習プロジェクト研究は、今回の研究大会が最後の報告となる。今回は、３年間のプロジェクト研究の集大成として、討議してきた内容を総合化し、その成果を反映した理論枠組みの提示を行うとともに、さらにその理論枠組みを具体的な実践に落とし込む作業を行う。

まず、第１報告では、前回 2023 年六月集会にて経過報告を行った、「当事者・家族・支援者の学び」「マジョリティの学び」「地域・権利・制度」の３つのグループ及びグループを越えた全体討議によって進めてきた本プロジェクト研究の足跡と議論の概要を整理して提示する。次に、第２報告では、その整理を踏まえて、本プロジェクト研究を通して浮かび上がった理論枠組みを提示する。特に障害をめぐる関係性に焦点を当てるときに浮かび上がるのが、専門家に過度に依存する専門職化と、それに伴う人々の「分断」の問題である。第２報告では、そうした社会的背景にも言及しながら、障害をめぐる人と人との「分断」を超克する、社会教育・生涯学習実践の理論を提示する。さらに第３報告では、その理論枠組みを踏まえて、複数の実践事例を考察し、実践の課題整理や学習の論理の分析を行う。

なお、３つの報告は、いずれもプロジェクト研究内でチームを作り協議を重ねて準備を行ったものである。

ラウンドテーブル

16：00～18：00

ラウンドテーブル①

テーマ　「ジェンダーと社会教育」の再検討（その 3）
—高等教育を経験した女性と女性労働者との「出会い」の可能性を考える—
コーディネーター　辻　智子（北海道大学）

報　告　広瀬　玲子（北海道情報大学）
岸　伸子（札幌女性史研究会）

コメンテーター　亀口　まか（龍谷大学）
冨永　貴公（都留文科大学）
矢内　琴江（長崎大学）

内　容　1920 ～ 30 年代、震災・凶作・不況による人々の苦境を眼前に世の中の矛盾や格差・貧困・差別への関心、社会事業や労働運動が広がり、階層や地域を超えた女性たちの交流も活発化した。高等教育を通じて社会科学などの学問に触れ社会への関心を高め現実への関与を自覚的に問うた女性は、それをどのように体現したのか。丸岡秀子、三瓶孝子、桟敷よし子と日本女子大学卒業生の足跡からこれを検討する。現在において戦前を問う意味も意識する。

ラウンドテーブル②

テーマ　住民主体のコミュニティ・エンパワメント評価方法の開発（2）

コーディネーター　堀　薫夫（大阪教育大学）
久保田　治助（早稲田大学）
菅原　育子（西武文理大学）
荻野　亮吾（日本女子大学）

報　告　似内　遼一（東京大学）
滋賀県近江八幡市老蘇学区安寧のまちづくり推進委員会（YOISYO!!）のメンバー

内　容　このグループでは，地域づくりを進める実践者が，自身と所属する組織，そしてコミュニティのエンパワメントの状況を主体的に評価できる方法の開発に努めてきた。

今回のラウンドテーブルでは，滋賀県近江八幡市老蘇学区で行ったエンパワメント・ワークショップを例にして，評価が地域づくりの取り組みをどう促していくかを示す。その後，エンパワメント評価の意味と社会教育研究としての意義を参加者と共有し，この評価方法の展望について議論したい。

ラウンドテーブル③

テーマ　支援の重層性をめぐる調査研究の展開のために
—子ども・若者支援に携わる専門職の力量形成と研修等のあり方（４）—

コーディネーター　生田　周二（奈良教育大学）
川野　麻衣子（NPO 法人北摂こども文化協会）

報　告　「子ども・若者支援地域協議会プレ調査の報告」
生田　周二（奈良教育大学）
「石巻圏域の子ども・若者支援の取り組みと地域協議会の課題」
鈴木　平（特定非営利活動法人　TEDIC）

内　容　支援は、福祉的な生活保障と個人の自己形成という 2 側面からの対応である。その重層性について、①支援の枠組み、②支援方法、③連携・協働、③支援者の専門性と養成・研修、⑤支援者支援の 5 視点で検討する。重層性を志向する子ども・若者支援地域協議会の動向分析、ならびに協議会の指定支援機関である民間団体の事例報告を受けて、個別ケースへの対応と課題、関係機関・団体との連携、公民の協働関係などについて検討したい。

ラウンドテーブル④

テーマ　近代開拓村における自己教育に関する研究
—「移民」たちのライフヒストリーをもとに—

コーディネーター　奥村　旅人（同志社大学）

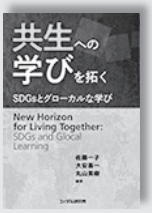
報　告　生駒　佳也（畿央大学・非常勤）
鈴木　伸尚（大阪市立大学）
猿山　隆子（関西福祉大学）

内　容　京都府南端の南山城村にある童仙房地区は、明治に切り拓かれた開拓村である。現在に至るまで常に「移民」たちが緩やかに移住（と離村）を繰り返し、村の時間と空間が作られている。本ラウンドテーブルでは、とりわけ「朝鮮人労働者」や「I ターン者」といった村の「他者」たちが、いかに村の生活の中で自己教育を行い、ときに遠方の他者との関係を新たに紡ぎながら、自己の生を切り拓いてきたのかを検討する。

生涯学習概論〈第3版〉 最新刊
―学びあうコミュニティを支える
小林 繁・平川景子・片岡 了（著）
定価 2,200円（税込）
2023年６月刊行

生涯学習について学ぶ学生、生涯学習に関心を寄せる市民のための初学者向けテキスト。
〈第3版〉では社会教育士や学習支援者の役割と力量形成の課題についても言及されている。

共生への学びを拓く
―SDGsとグローカルな学び
佐藤一子・大安喜一・丸山英樹（編著）
定価 2,530円（税込）
2022年４月刊行

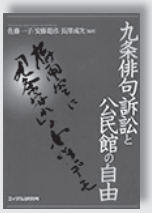


多様な教育・学習機会の拡充とともに市民団体などが連携し、生きづらさをかかえる人とともにどう生きるか、社会から取り残されている人への支援をどう構築するか、実践レベルから課題と展望を探る。

市民活動のはじめの一歩
―一人ひとりが子どもの権利の支え手として
子どもの権利条約ネットワーク（編）
定価 1,870円（税込）
2022年３月刊行

全国で市民活動に携わる方々がなぜ活動をはじめたのか、どのようにはじめたのか、何が後押しをしたのか、市民活動に関わることの意義などが語られる。

九条俳句訴訟と公民館の自由
佐藤一子・安藤聡彦・長澤成次（編著）
定価 1,980円（税込）
2018年５月刊行



梅雨空に「九条守れ」の 女性デモ
表現の自由を取り戻し、公民館で住民が学び続ける意味を再確認する大きなうねりにまで広がった九条俳句訴訟のドキュメント。

躍動する韓国の社会教育・生涯学習
―市民・地域・学び
梁炳贊・李正連・小田切督剛・金侖貞（編著）
定価 4,400円（税込）
2017年６月刊行

韓国の市民の躍動を支える社会教育・生涯学習の実践と政策を「市民・学び・地域」を切り口に描き出す。金大中・盧武鉉のリベラル政権10年と、李明博・朴槿恵の保守政権9年の動き、今後の展望を示す。

大都市・東京の社会教育 ―歴史と現在
東京都社会教育史編集委員会（編）、小林文人（編集代表）
定価 4,950円（税込）
2016年９月刊行

戦後70年にわたる大都市・東京の社会教育・市民教育の流れ、歴史的特徴を明らかにすること、風化しつつある事実を記録し、稀少な史料・証言を収録することにより、これからの社会教育・生涯学習の可能性や展望を切り拓こうとする。

エイデル研究所
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-9
TEL. 03-3234-4641 FAX. 03-3234-4644 http://www.eidell.co.jp

生涯学習と社会教育の基礎 編集中
津田 英二・伊藤 真木子・鈴木 眞理 編著
A５判 並製 192 頁 予価 2,530 円 2024年春刊行予定

社会教育・生涯学習入門
―誰ひとり置き去りにしない未来へ
二ノ宮リム さち・朝岡 幸彦 編著
A５判 並製 160 頁 定価 2,200 円

DX時代の人づくりと学び
降旗 信一・金馬 国晴・加納 寛子・佐々木 豊志 編著
A５判 並製 160 頁 定価 2,200 円

探究モードへの挑戦
田村 学・佐藤 真久 編著
合田哲雄・浅野大介・田渕六郎・白井俊 著
A５判 並製 280 頁 定価 3,300 円

ビジュアル博物館学 Basic
〈ミュージアムＡＢＣシリーズ〉
水嶋 英治・髙橋 修・山下 治子 編著
B５判 並製 168 頁 定価 2,530 円

主権者を育てる社会科の授業
―社会と出会う・社会を知る・社会を生きる
脇坂 圭悟・佐藤 学 著
四六判 並製 192 頁 定価 2,090 円

「人間」と「言葉」を洞察する出版社

人 言 洞〈NingenDo LLC〉 〒234-0052 神奈川県横浜市港南区笹下 6-5-3
mail info@ningendo.net website https://www.ningendo.net
tel 045（352）8675 fax 045（352）8685

動物園と水族館の教育
—SDGs・ポストコロナ社会における現在地

●朝岡幸彦 編　　定価2,090円

博物館としての動物園・水族館の位置づけを確認し、コミュニティ機能を強めつつある動物園・水族館の未来を見据える。

「ESD でひらく未来」シリーズ
社会教育・生涯学習論 改訂版
—自分と世界を変える学び

●鈴木敏正・朝岡幸彦 編著　　定価2,090円

社会教育・生涯学習の基本について考え直す。歴史をふまえつつ、地域での具体的実践例を通して理解を深め今後の課題を提供。

生涯学習と地域づくりのハーモニー —社会教育の可能性

●田中雅文 監修/柴田彩千子・宮地孝宜・山澤和子 編著　　定価2,200円

「生涯学習」研究に取り組んできた執筆者が、「学校と地域」「共生社会」「子育て支援」「おとなの学び合い」をテーマに編纂した実践論集。

ユネスコ・教育を再考する
—グローバル時代の参照軸　　定価2,200円

●日本教師教育学会第10期国際研究交流部・百合田真樹人・矢野博之 編訳著/他訳著

"Rethinking Education"待望の翻訳。ユネスコの教育政策と実践の基盤議論を読み解く。重要語句や概念群の解説を加え紹介。

生涯学習支援の基礎

●小池茂子・本庄陽子・大木真徳 編著　　定価2,530円

学習・学習意欲,学習活動を高める支援理論について体系的に整理・解説。

社会教育経営の基礎

●山本珠美・熊谷愼之輔・松橋義樹 編著　　定価2,750円

最新の法改正等に対応した新設科目の「社会教育経営論」基礎テキスト。

日本と韓国における多文化教育の比較研究
—学校教育,社会教育および地域社会における取り組みの比較を通して

●呉世蓮 著　　定価3,850円

日本と韓国の法制度や政策、言語的・文化的な教育活動を比較。

批判的思考と道徳性を育む教室
—「論争問題」がひらく共生への対話

●ネル ノディングス・ローリー ブルックス 著
山辺恵理子 監訳/他訳　　定価2,970円

答えの出ない問題をどう扱い子どもたちと考えるか。対話が紡ぐ共生の道。

近代日本の大学拡張 —「開かれた大学」への挑戦

●山本珠美 著　　定価9,240円

日本の高等教育機関における大学拡張の歴史を5期に分けて論じる。

近代日本の生活改善運動と〈中流〉の変容
—社会教育の対象／主体への認識をめぐる歴史的考察

●久井英輔 著　　定価8,250円

大正・昭和の生活改善運動を推進する機関誌等のメディアのあり方に注目。

〒153-0064　東京都目黒区下目黒３－６－１
http://www.gakubunsha.com

学文社

Tel 03-3715-1501(代)　Fax 03-3715-2012
E-mail: eigyo@gakubunsha.com

日本社会教育学会　第 70 回研究大会プログラム

2023 年 7 月 31 日発行

【発行】日本社会教育学会事務局
〒 189-0012 東京都東村山市萩山町 2-6-10-1F
E-mail：jssace.office@gmail.com　　https://www.jssace.jp/

【会費等納入先】
ゆうちょ銀行　振替口座００１５０—1—８７７７３（口座名：日本社会教育学会）
他金融機関からの振込用口座番号　〇一九（ゼロイチキュウ）店（019）当座 0087773